

No.10 青少年活動支援事業 （人権・社会教育課）

令和元年度にめざした姿(目的)

「出会い・体験・感動」を活動の基軸とし、高校生や青年層が地域活動に参加できる仕組みをつくり、5年後10年後の地域リーダーを育成します。

令和元年度にめざした成果

- ①高校生が国際交流を通してグローバルな意識を持ちます。
※グローバル…国境を越えた地球規模の視野と、草の根の地域の視点で、様々な問題を捉えていこうとする考え方。
- ②青年団が県外交流を通して主体的な活動に向けてのヒントを得ます。
- ③子ども会がリーダー研修を通して他市町村の児童とのつながりを持ちます。

令和元年度にめざした活動(主な取り組み)

- ①高校生サークルの国際交流（韓国研修）を継続します。
- ②青年団の県外交流（徳島県石井町）を進めます。
- ③子ども会の西部地区7町村合同リーダー合宿に取り組みます。

令和元年度の成果

- ①高校生サークル国際交流事業を実施し、韓国の高校生、大学生と直接交流することでグローバルな意識に気づくことができました。
- ②徳島県石井町青年団と交流し、自主組織の仕組みについて学びました。
- ③西部地区7町村合同リーダー合宿に参加し、他市町村の児童とつながりを築くことができました。

令和元年度の問題

- ①国家間の政治的関係の悪化の中で安全面の確保が心配されます。
- ②組織作りと主体的な活動とを結びつけていくためのリーダー養成を進める必要があります。
- ③つながりづくりの次の仕掛けが不十分であると同時に、行政担当者以外の育成者の関わりが希薄になりつつあります。

令和2年度以降の方策

(1) 達成できた事項をさらに伸ばす方策

- ①同年代（高校生）との交流が効果的であったため、継続した高校生同士の交流の機会を創造します。
- ②実際の活動を通して交流し、理論と実践を結びつけます。
- ③早めの募集に心掛け、参加者の増加を目指します。

(2) 解決すべき問題への方策

- ①現地の高校、大学と事務局との連携をより密にし、サポート体制を充実させます。
- ②交流団の事前学習を充実させ、リーダー育成に努めます。
- ③育成者への協力を呼びかけ、関わる大人の数を増やします。

(3) 新たに取組む方策

- ①SNSを活用した事前事後の交流を進めます。
- ②町内でのイベントにも目を向け、主体的な活動の場を探ります。
- ③リーダー合宿の様子や成果を伝える場を創造します。